

優秀賞

あいさつの大切さ

岩出第二中学校 一年 畠中 彩衣

私には毎日の日課があります。それは、私が飼っているトイ・プードルのショコラの散歩です。私とお姉ちゃん毎日行っていて、朝はお姉ちゃんが、夕方は私の担当です。夕方の散歩では色々な人に会います。私がいっぱいあいさつをしている人たちのことを紹介したいと思うのと共に、あいさつの大切さも伝えたいと思います。

まず一人目に紹介する人は、毎日会って、毎日あいさつをしている人のことです。その人は私と会うとたくさん話をしてくれます。私もその人も旅行が好きで旅行の話をしたり、犬のことを話したりします。そういう風に私とたくさん話をしてくれる人は、毎日じゃなくてもたくさんいます。そういう、なれ親しんだ人でも、会って一番初めにかわす言葉はあいさつです。「こんにちは」や「久しぶり」などと、いろいろなあいさつをかわします。

次に二人目に紹介する人はあいさつを返してくれなかった人についてです。私がいっぱいあいさつをする人の中にも、返してくれない人や知らないふりをしたりする人もいます。でも、私はめげずに、会うたびにあいさつを忘れないでしていたら、小声でもあいさつをしてくれるようになって、今では、私と同じくらいの声の大きさにあいさつをしてくれるようになりました。そういう、あいさつだけでも変わってくれる人はたくさんいます。

次に三人目に紹介する人ですが、私も悲しいことだったのでよく覚えています。いつもおじいさんが犬の散歩をしていて、私はおじいさんからのあいさつで、仲良くなりました。私にはおじいちゃんがいなくて、だけど私の悩み事を聞いてくれたりする、そんなおじいさんのことを、本当のおじいちゃんのように思っていました。でもある時から、犬の散歩をするのがおばあさんになって、なんでだろうと思って聞いてみました。すると、もうなくなったという話を聞きました。その時私はすごく悲しくて泣きそうだったけど、私よりもおばあさんのほうが悲しんでいるのに泣いたらダメだと思って、泣くのを我慢していました。しかし、そのことに引き続き悲しいことを知りました。

私はおばあさんとも仲良くなっていたのですが、そのおばあさんが、娘さんたちのいる熊本県に引っ越すことになったことを聞き、私はそれで、思わず少し泣いてしまっておばあさんを困らせてしまいました。けれども、私が泣きやんだときくらいに、犬も一緒に行って暮らすし、おじいさんはずっと私たちのことを見守ってくれているだろうから大丈夫と言ってくれました。それで私は笑って、別れました。その日で会えるのが最後でした。でも、私は最後に笑えてよかったと思います。このように悲しくても最後は笑顔で終われる、いい思い出があいさつから始まることを私は知りました。

最後に紹介する人は最近出会った人です。その人はいつ来たかは分からないけど、フィリピンの人です。その人たちと会うとき、その人は2～4人で自転車に乗っていて、カタコトだけど「こんにちは」と言ってくれます。最近は何のことも話してくれるのですが、私は言葉が分からないのであいづちだけしかうてません。でも、その人たちは書く・読むが得意らしくて、メモ帳で話したりするようになりました。そうするときちゃんと話も出来ます。その人たちとの話は面白くて、つりに行ったことを教えてもらったこともあります。このように、言葉が通じなくても、あいさつから始まって、こんなにも、仲良くなっている話ができることをみんなにも知ってもらいたいです。

私はこのような色々な人たちに少しずつでもあいさつをして、変われました。あいさつは人を変えることもできます。悲しいことが起こるかもしれないけど、笑顔で終われることの始まりの言葉です。私にとってあいさつとは、日常生活であたりまえの言葉です。みんなもそうだと思います。言葉や国境の壁をあいさつはこえることができます。それほど、あいさつというのは大切で偉大なものだと思っていていきたいです。